

令和2年度 学部越境型地域志向科目 開講科目一覧

整理番号	科目名	サブタイトル	担当教員	科目概要	開講時間			学生 受入定員	備考
1	青森の多様性と活性化	あおもりの暮らし	李 永俊(人文社会科学部)	本講義では、本学が位置している青森県の暮らしを学習テーマとして取り上げる。学習者が自ら行方情報収集、課題発見、グループディスカッション、プレゼンテーションを通して、暮らしの現状を把握し、その解決策を模索する課題探求型アクティブラーニングで行う。	後期	金曜日	3・4時限	30	前期・月曜3・4時限→後期・金曜3・4時限に変更
2	地域プロジェクト演習	プロジェクト設計による地域課題の解決(基礎)	米田 大吉(非常勤講師)	現実の地域社会の課題は「正解や解決方法が一つとは限らない」ものです。この演習では、自らの課題認識をプロジェクトとして具現化し、ワークセッションを繰り返します。必要に応じて、フィールドワークを盛り込みます。課題の裏側にある本質を理解し、社会で活躍できる社会人に必要な能力を高めることを到達目標にします。 1)身の回りにある課題の本質を把握し、その普遍性を整理して、評論家ではなく実践者・当事者として行動できる 2)自分の考えを自分の言葉でまとめ、きちんと他者に伝えられるが評価ポイントです。	前期	月曜日	3・4時限	20	
3	青森エクスカージョン	青森県の企業の魅力を発信①	小寺 将太(非常勤講師)	○本講義では、青森県内の魅力的な企業を発掘するために県内企業へ取材を行い、現地調査のスキルを身につけていきます ○各学部の力、専門性をチームとして活かしながら、青森県内の企業の魅力を記事を作成して発信していきます ○青森県内の企業の魅力を発信する実践を通して、県内企業の発信力が低いという課題を解決していくことが本講義の目的です	前期	月曜日	3・4時限	30	
4	青森エクスカージョン	青森の生物学①	工藤 誠也(非常勤講師)	○身近にみられる生物について知識を身につける ○知識を身につけた上で、実際に野外へ行きその生きた姿を観察する ○観察により得られた知見をまとめ、発表する	前期	月曜日	3・4時限	32	
5	地域プロジェクト演習	サウンドスケープ入門	今田 匡彦(教育学部)	○ヒトが生まれる以前から存在した音に着目し、どのような奇蹟を齎したかを、実際に在る地域のサウンドスケープを通して検証し、その意義や限界を理解する。 ○上記から抽出された素材を利用し、地域に根差したアート・プロジェクトを企画、実施するための手法を身に付ける。	前期	月曜日	9・10時限	30	
6	地域プロジェクト演習	地域産品の創作A	富田 晃(教育学部)	・わら細工による創作 ・後帯機による手織物の創作	前期	火曜日	1・2時限	14	
7	青森エクスカージョン	青森の農の可能性①	平井 太郎(地域社会研究科)	・現代の都市と農村が抱える問題解決策としての共生プログラムについて懇々沢の例に即して学ぶ。 ・他大学の学生や大都市の企業・団体の職員と意見交換することで、より望ましいプログラムのあり方を討議し提案する。	前期	火曜日	3・4時限	30	
8	地域プロジェクト演習	青森のアートマネジメントと文化戦略	○朝山 奈津子(教育学部)、出 佳奈子(教育学部)、塚本 悦雄(教育学部)	○地域に合った「アート」の持続可能性を戦略的に学びます。 ○「なんでもアート」に陥らないために、アートの概念を学びます。 ○以上により、アートそれぞれの「カッコよさ」をアピールする手法を学びます。	前期	火曜日	3・4時限	24	
9	地域プロジェクト演習	健康革命を学ぶ	村下 公一(COI研究推進機構)、井原 一成(医学研究科)、松原 博子(医学研究科)	弘前大学では、医学研究科が中心となって、ビッグデータを活用した認知症や生活習慣病など病気の予兆発見の開発や、予防法を開発する研究とビジネス化に取り組んでいます。プロジェクト名は「認知症・生活習慣病研究とビッグデータ解析の融合による画期的な疾患予兆発見の仕組み構築と予防法の開発」(弘大COI事業)です。この授業では、同プロジェクトを事例として取り上げます。 ○弘大COI事業の概要を理論的・経験的に知り、その先進性や今後の課題を理解する(なお医学に関する専門知識は不要です) ○弘大COI事業の現状を踏まえて、プロジェクトの改善や青森短命県返上に向けた社会実装の具体案を企画する *弘前市(岩木町)で演習があります。	前期	火曜日	3・4時限	40	

整理番号	科目名	サブタイトル	担当教員	科目概要	開講時間			学生 受入定員	備考
10	地域プロジェクト演習	北東北の舞踏と芸能ワークショップ	グリゴレ・イリナ・フロレンティナ(非常勤講師)	青森県をクリエイティブな地域として再発見するために、文化人類学およびパフォーマンス研究の立場から、イメージ、踊り、コミュニティなどのキーワードによる創作ワークショップを行い、映像・展示・インスタレーションという民族誌の最新手段を実践していきます。	前期	火曜日	3・4時限	25	
11	青森エクスカージョン	コミュニティと情報	松本 悦子(非常勤講師)	○コミュニケーション論の基礎的な知識や方法論を学び、現代社会を眺める視座を身に付けることを目指します。 ○社会におけるコミュニティと情報の関係性を考えるために、地域に根ざした活動の取材・調査等を行い、青森における課題について考察します。	前期	火曜日	7・8時限	12	
12	青森エクスカージョン	Research in communal sustainability	諏訪 淳一郎(国際連携本部)	○個別の課題を設定して調査し、それをドキュメントする方法について学びます。Documentation skill will be acquired through individually designed research project. ○調査対象を青森周辺に設定することによって、幅広い角度から地域の生活などについて学びます。 local ways of life will be learned from various angles through field research in Aomori.	前期	火曜日	9・10時限	8	
13	青森の多様性と活性化	原発・核燃と地域社会	○宮永 崇史(理工学部)、泉谷 真実(農学生命科学部)、大谷 伸治(教育学部)、河合 正雄(人文社会科学部)、鈴木 裕史(理工学部)、永瀬 範明(理工学部)、根本 直樹(理工学部)、福田 進治(人文社会科学部)、大坪 正一(非常勤講師)他	青森県六ヶ所村には、日本の原子力政策の基幹をなす核燃料サイクル施設が建設され、青森県の政治・経済・社会にさまざまな影響を与えてきましたが、2011年の福島第一原発事故以来、原発の安全神話が崩れるとともに、この施設の必要性にも疑問の目が向けられるようになりました。 そこで、この授業では、原子力発電、再処理事業、核燃料サイクルの概要を学びながら、青森県の未来にとって核燃料サイクル施設が必要かどうか、核燃料サイクルに頼らないエネルギー政策は可能かどうかといった諸問題について、多様な学問分野の視点から多角的に学びます。	前期	水曜日	3・4時限	40	
14	青森エクスカージョン	Cultural anthropology of exhibitions	○諏訪 淳一郎(国際連携本部)、片岡 太郎(人文社会科学部)	○路上のデザインと遺跡を対象とした視聴覚的な側面についてフィールドワークし、文化人類学的な学修を身に着けます。 Anthropological study based on the audiovisual aspects in field work will be conducted through observing street designs and archaeological sites. ○青森の地域性について考古学的遺跡と路上景観のフィールドトリップから学習します。 Locality of Aomori will be explored through making field trips to archaeological sites and contemporary street landscape.	前期	水曜日	5・6時限	5	
15	地域プロジェクト演習	アート・プロジェクト入門	高橋 憲人(非常勤講師)	○特定の地域で開催されるアートイベントの多くは、「参加型」を標榜しているものであっても、予め企画者側によって目指すべき最終成果が設定されています。しかし、芸術とは、自身の生活環境(地域)のなかで物事と照応しながら、その環境を少しずつ変化させてゆくプロセスそのものはずです。この授業では、従来のアートイベントを批判的に検討し、自身の生活環境を基盤とした芸術活動の可能性について考えます。 ○授業内での演習(ワークショップ)を通して、生活環境のなかでの自身とさまざまな素材(地域資源)との関係性を経験的に学びます。そこから、授業の最終段階として、一人ひとりが生活環境のなかの物事を素材にした芸術実践のエクササイズをデザインします。	前期	水曜日	9・10時限	20	
16	青森の食と産業化	食生活論	李 秀眞(教育学部)	○日本の食文化の特徴および青森も食文化の特徴について考察する。 ○青森の地域課題として、青森の食が抱える問題とその解決方法について考える。 ○個人の発達段階に応じた食生活の問題点とその解決方法について考える。 ○自分の食生活を見直し、自分の食生活の問題点とその解決方法について考える。	前期	木曜日	1・2時限	60	
17	地域プロジェクト演習	食と地域づくり	柴田 彩子(非常勤講師)	○食を、地域の資源として活用する上で必要な視点を学びます。 ○青森県内外の食に関するグループ活動を事例に、食に関わる地域づくりの実例を学びます。あわせて、外部者が取りうるさまざまな支援の形を学びます。 ○地域の特徴的な食を紹介するプレゼンテーションを行うことで、地域の資源である食にアプローチし、情報発信する手法を身につけます。	前期	木曜日	1・2時限	50	
18	青森エクスカージョン	青森の生物学②	工藤 誠也(非常勤講師)	○身近にみられる生物について知識を身につける ○知識を身につけた上で、実際に野外へ行きその生きた姿を観察する ○観察により得られた知見をまとめ、発表する	前期	木曜日	1・2時限	32	

整理番号	科目名	サブタイトル	担当教員	科目概要	開講時間			学生 受入定員	備考
19	青森の多様性と活性化	消費者問題の取り組み	○福田 進治(人文社会科学部)、保田 宗良(人文社会科学部)、吉村 顕真(人文社会科学部)、加賀 恵子(教育学部)、加藤 徳子(非常勤講師)	今日の日本社会では、強引な勧誘や不公正な契約、架空請求や不当表示など、消費生活をめぐるトラブルが絶えず生じています。また、私たち自身の消費生活のあり方が社会環境や自然環境に影響を与えることが問題になっています。そこで、この授業では以下の3点を中心に消費者問題を学びます。 ○青森県内の消費者問題の状況を学びます。 ○消費者問題から身を守るための方法を身に付けます。 ○誰もが安心して暮らせる消費社会の構築に主体的に関わっていく方法を考えます。	前期	木曜日	3・4時限	40	
20	青森の多様性と活性化	人口減少社会の再デザイン:新幹線をキーワードに	榊引 素夫(非常勤講師)	○日本でも最も激しい人口減少と高齢化に直面している青森県、そして津軽地方において、「それでも持続可能な社会を考案し、実際に構築していく担い手」となる自覚と視点を培えるよう、実際に社会へ出て、「解消・軽減・達成可能な課題」を見だし、テキスト化(記事化)するとともに、当事者や第三者に提言する営みを目指します。 ○対象とするテーマは自由ですが、授業としては「駅・鉄道」に重点を置き、特に「新青森駅」に焦点を当てます。実際に現地へのエクスカーションを予定しています。 ○原則として、複数学部のメンバーで構成するグループを単位として活動します。また、外部からさまざまなゲストスピーカーを招いて問題提起や助言をいただくとともに、最終的な成果を学内にとどめるのではなく、関係する方々や市民の方にも届けられるよう、プレゼンの場合は「公開」とすることを想定しています。対象が特定できる記事や提言が生まれれば、実際に先方へ届けることを想定します。また、執筆した記事は「新聞」等の形態のメディアの素材とし、原則として公表することを想定しています。 ○以上の作業を通じて、実社会との接点を具体的に見いだすとともに、社会人基礎力を磨き、より充実した学修・研究と就職活動につながる総合力や協調性を磨きます。	前期	木曜日	3・4時限	35	
21	青森エクスカーション	質的調査入門	高瀬 雅弘(教育学部)	○講義と実践を通して多様なデータ素材に対する感受性を磨き、フィールドワークの方法を学ぶ ○フィールドワークを通して、私たちの身の回りの社会＝青森県を中心とした地域社会への理解を深める ○フィールドワークの代表的な方法である様々な観察法・聞き取り・ドキュメント分析について紹介し、それぞれについて簡単な実践を行う ○大学周辺地域をフィールドに各自の関心に基づいたフィールドワークを行い、他者に対してプレゼンテーションを行うことで、フィールドワークの一連の過程を習得・実践できるようになる	前期	木曜日	3・4時限	10	
22	地域プロジェクト演習	地域メディア活用の実践	大浦 雅勝(非常勤講師)	インターネットによる地域情報の発信を通じて、ビジネスに不可欠なインターネットリテラシーを向上させる講義です。具体的には、私たちの暮らす地域の魅力である文化・歴史・企業・店舗・イベント・人などを個人やグループワークで見つけ、地域の魅力を伝えるために取材を行い記事を書きインターネット上のニュース媒体(ブログ)に掲載します。掲載した記事をSNSなどを活用してアクセスを増加させます。最後に情報発信による効果の測定をします。実社会で役立つスキルが身につく講義です。	前期	木曜日	3・4時限	30	
23	地域プロジェクト演習	子ども・子育てと地域	○増田 貴人(教育学部)	地域社会参加には実際にはいろいろなアプローチが考えられるが、本授業においては、企画の対象を「子ども(概ね年長幼児から小学生くらい)」とすることで、それを発揮するためのプログラムを学生自ら企画・実践をする、いわば育児分野を切り口にした地域社会参加を考えてもらう。 いわば、体験的学習につなげていくサービラーニングを企図しており、そのなかで、以下の3点を学んでもらうよう指向している。 ①子ども・家族と絡めた地域社会活動につながる知識・技術・マナーを講義等で学ぶ ②実際に地域のなかで育児支援活動を企画・準備・実践してみることで、地域社会参加について体験的に深めていく。 ③学生個々の地域社会の当事者意識の醸成	前期	木曜日	3・4時限	32	
24	地域プロジェクト演習	環境と向き合い実践を学ぶ地域演習	北原 啓司(教育学部)、土井良弘(地域社会研究科)	環境を自分事として考え実践にむすびつけることが出来ることを目標に、単なる座学のみではなく、地域演習・見学(岩手県住田町、葛巻町ほか)、行政・企業・市民とのワークショップ等を展開していく科目です。	前期	木曜日	3・4時限	25	数回は集中形式で開講する予定です。
25	青森エクスカーション	地域の情報の集め方・まとめ方・伝え方	柴田 彩子(非常勤講師)	○何が「地域に関する情報」なのか検討します。 ○まちあるき・インタビュー・参与観察などフィールドワークの手法を用いて、地域の情報を収集することを学びます。 ○収集した情報を適切に整理する手法を学びます。 ○「地域に関する情報」を、地域の魅力を表すものとして実際に発信します。	前期	木曜日	3・4時限	15	

整理番号	科目名	サブタイトル	担当教員	科目概要	開講時間			学生 受入定員	備考
26	青森の多様性と活性化	地域社会とメディア	松本 悦子(非常勤講師)	○メディア論の基礎的な知識や方法論を学び、現代社会を眺める視座を身に付けることを目指します。 ○地域社会における生活とメディアの関係性を考えるために、地域活動の見学等を行い、青森における地域メディアの役割と可能性について考察します。	前期	金曜日	5・6時限	30	
27	青森エクスカージョン	津軽の漆工芸	高橋 憲人(非常勤講師)	○津軽の漆工芸を、国の文化政策、全国的な工芸運動の変遷から分析します。それを基に、重要無形文化財への指定など、その多様性が評価され始めた津軽塗を、どのような仕方で文化資源として活用していくのかを考えます。	前期	金曜日	7・8時限	20	
28	青森の多様性と活性化	地域活性化論①	○長南 幸安(教育学部)、小倉 亮(ゲストスピーカー)、藤田 邦雄(ゲストスピーカー)、川崎 武志(非常勤講師)、坂本 謙二(非常勤講師)、福眞 睦城(非常勤講師)、神田 昌彦(非常勤講師)	○青森県内の公的機関、企業、非営利団体等において活躍されている講師から、それぞれの立場で「地域活性化をどのようにとらえ、また実践しているか」について学ぶ。 ○青森県の地域活性化のための方策を考察し、レポートとして提案する。	前期	集中		90	開講日：5/23(土),24(日),30(土) (受講のための説明ガイダンスは、放課後に実施)
29	青森の多様性と活性化	地方農山村の暮らしを知る・考える①	○成田 凌(非常勤講師)、羽瀨 一代(人文社会科学部)	○日本の「最周縁」の青森県のなかでも、さらに周辺に位置づけられる過疎市町村の暮らしについて、主に社会学的な視角や手法を用いて考える。 ○産業構造や人口動態、生活環境が大きく変わるなかで人びとの暮らしはどのように変化し、現在いかなる課題に直面しているのか。実際にフィールドワークで得られた各自の知見をふまえて議論をおこない、理解を深める。	前期	集中		20	講義＋フィールドワーク＋発表報告を実施予定のため、分割日程での開講 前期4月～8月各月1回(土曜日、4コマ/回)を予定
30	青森エクスカージョン	深浦町と弘前大学①	関井 清乃(非常勤講師)	○世界遺産の白神山地や、生物相豊かな深浦海岸などを有する自然豊かな地域である深浦町を実際に訪れて、ハイキングや磯採集などを通してその豊かな自然資源について学ぶ ○深浦町は弘前大学の臨海実験所(深浦実験所)や宿泊施設(深浦ハウス)があるなど、大学との縁も深い場所であり、弘前大学として地域にどのような貢献ができるかを考えてみる ○決まった答えが用意されている授業ではないため、まずは拙くても構わないので自分の考えを述べ、他者と意見を交換し、まとめていく力を身につける	前期	集中		20	月1回の集中講義で、7.8.9月の計3回を計画しています。
31	青森エクスカージョン	深浦町と弘前大学②	関井 清乃(非常勤講師)	○世界遺産の白神山地や、生物相豊かな深浦海岸などを有する自然豊かな地域である深浦町を実際に訪れて、ハイキングや磯採集などを通してその豊かな自然資源について学ぶ ○深浦町は弘前大学の臨海実験所(深浦実験所)や宿泊施設(深浦ハウス)があるなど、大学との縁も深い場所であり、弘前大学として地域にどのような貢献ができるかを考えてみる ○決まった答えが用意されている授業ではないため、まずは拙くても構わないので自分の考えを述べ、他者と意見を交換し、まとめていく力を身につける	前期	集中		20	月1回の集中講義で、7.8.9月の計3回を計画しています。
32	青森エクスカージョン	青森の民間信仰と心理療法の接点	安達 知郎(保健学研究科)	巫者信仰、心理療法の基本についての講義、および、巫者信仰に関連する場所でのフィールドワーク	前期	集中		15	
33	地域プロジェクト演習	弘前市の課題と発展を考える	○森 樹男(人文社会科学部)、蒔田 純(教育学部)。他に1～2名担当予定。	○弘前市内の大学生が集まり、自分たちの住む地域の様々な課題を学び、課題解決に向けて話し合います。 ○テーマは、Ⅰ. 青森の地域生活課題、Ⅱ. 持続的な街づくり、Ⅲ. 若者の政治参加です。(都合によりテーマが変わる場合があります) ○各テーマは日替わりで、前半はテーマに沿ったゲストスピーカー(弘前市役所職員など)が講義を行います。 ○後半は、参加している市内の大学生と一緒にグループディスカッションをおこない、地域の発展のために学生自身ができることについて考えます。 ○「大学コンソーシアム学都ひろさき」によって運営される科目です。	前期	集中		30	実施場所：ヒロロ4階 市民文化交流館ホール
34	地域プロジェクト演習	観光基礎論	西谷 雷佐(非常勤講師)	○青森県の観光を考えるにあたって必要な観光の基礎知識を学習します。 ○特に、地域に観光客を呼び込むための着地型観光に焦点を当て、インバウンド観光、DMO、グリーンツーリズム、教育旅行などのテーマごとに現在の観光について解説していきます。 ○観光を考えるために必要な発想法や観光商品の組み立て方などを演習を通して学習します。	前期	集中		30	

整理番号	科目名	サブタイトル	担当教員	科目概要	開講時間			学生 受入定員	備考
35	地域プロジェクト演習	地域生活調査実習	高瀬 雅弘(教育学部)	○2008年に公布・施行された「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」(通称・歴史まちづくり法)に基づいた歴史まちづくりについて学ぶ ○弘前市が指定する「趣のある建物」「景観重要建造物」について、実際に現地を訪問して調査を行う ○調査結果に基づき、今後の保存と活用に向けた課題を探る	前期	集中		10	
36	青森エクスカージョン	陸奥湾の生物学	○大高 明史(教育学部)、美濃川 拓哉(東北大学浅虫海洋生物学教育研究センター准教授)(非常勤講師)、藤本 心太(東北大学浅虫海洋生物学教育研究センター助教)(非常勤講師)	○2020年9月7日から10日まで、東北大学浅虫海洋生物学教育研究センターを使って集中で行う臨海実習。 ○野外および実験室で陸奥湾の生物を観察し、海洋生物生物についての理解を深める。 ○浅虫水族館を訪問し、陸奥湾の特徴とその生物学的特性について学ぶ。	前期	集中		20	実施日:2020年9月7日(月)から9月10日(木)までの3泊4日 実施場所:東北大学附属浅虫海洋生物学教育研究センター(青森市浅虫) 滞在は宿泊棟を使います。食事等の実費4980円が必要です。
37	青森エクスカージョン	青森の生物学③	工藤 誠也(非常勤講師)	○身近にみられる生物について知識を身につける ○知識を身につけた上で、実際に野外へ行きその生きた姿を観察する ○観察により得られた知見をまとめ、発表する	前期	集中		32	8月に実施予定
38	青森エクスカージョン	津軽平野の自然と防災・減災	小岩 直人(教育学部)	・津軽平野の特色を地理学的な観点で解説、その後、津軽平野の西部において巡検を実施します(バスを利用)。 ・地形図、空中写真、ハザードマップ等を使った室内での調査をもとに、当該地域の防災・減災について考察します。 ・このような巡検・調査をもとに、地理学的な観点から、自然の成り立ち、および自然と人間生活と関係性を考察する基礎的な能力を養います。	後期	月曜日	3・4時限	30	
39	地域プロジェクト演習	プロジェクト設計による地域課題の解決(発展)	米田 大吉(非常勤講師)	現実の地域社会の課題は「正解や解決方法が一つとは限らない」ものです。 この演習では、自らの課題認識をプロジェクトとして具現化し、実行します。 課題の裏側にある本質を理解し、社会で活躍できる社会人に必要な能力を高めることを到達目標にします。 1)身の回りにある課題の本質を把握し、その普遍性を整理して、評論家ではなく実践者・当事者として行動できる 2)自分の考えを自分の言葉でまとめ、きちんと他者に伝えられる が評価ポイントです。	後期	月曜日	3・4時限	20	
40	青森の多様性と活性化	雪国活性化論	○長南 幸安(教育学部)、北原 啓司(教育学部)	○青森や津軽などの雪国の生活に関して、どのような問題があるのか、その原因は何であるか、魅力は何かを学習し、理解する。 ○雪国での生活の問題点や魅力を理解し、それを克服し、雪とともに暮らす生活を楽しいものにするためにはどうすべきか、どのような方法があるかを考察する。	後期	月曜日	5・6時限	40	実験・演習は集中形式で行う。 実施日:実験5回分 2021年1月15日(金)1~5コマ目
41	地域プロジェクト演習	地域産品の創作C	富田 晃(教育学部)	木工品(青森の地域産材を材料とし、一つの塊から削りだすもの)の創作。	後期	月曜日	7・8時限	14	
42	青森エクスカージョン	青森の農の可能性②	平井 太郎(地域社会研究科)	・現代の都市と農村が抱える問題解決策としての共生プログラムについて鯉ヶ沢の例に即して学ぶ。 ・他大学の学生や大都市の企業・団体の職員と意見交換することで、より望ましいプログラムのあり方を討議し提案する。	後期	火曜日	3・4時限	30	
43	地域プロジェクト演習	フィールドワークの世界	羽淵 一代(人文社会科学部)	○この授業では、身近にあるメディアとしてケータイをトピックにフィールドワークの手法を説明します。 ○教科書にある地域におけるメディアのフィールドワークの事例を学び、青森県内地域へと応用する手法を学びます。 ○社会学、人類学の手法を用いることによって、社会の様相を理解する方法を学びます。 ○青森県内のメディア状況をフィールドワークで把握します。 ○そのうえで、メディア環境の問題を明らかにすることで環境改善デザインをおこないます。 ○フィールドワークの基本的技術に関する知識の習得をします。	後期	火曜日	3・4時限	15	

整理番号	科目名	サブタイトル	担当教員	科目概要	開講時間			学生 受入定員	備考
44	市民参加と地域づくり	まち育てのススメ	北原 啓司(教育学部)	○まち育てについて学びます。 ○復興まちづくりの現場について学びます。 ○公共によるまち育てについて、地方自治の仕組みや市民参加の計画づくり、地域公共交通、エリアマネジメント等の事例を学びます。	後期	水曜日	3・4時限	30	
45	青森の食と産業化	Cultural anthropology of local food and dietary practice	○諏訪 淳一郎(国際連携本部)、杉山祐子(人文社会科学部)、近藤史(人文社会科学部)、平井太郎(地域社会研究科)、佐藤 孝宏(農学生命科学部)	○青森の食の多様性について特に食文化の観点から学びます。 Diversity of Food in Aomori from a cultural point of view will be explored. ○文化資源として青森の食が持っている潜在性について、フィールドトリップの体験から学びます。 Through excursions, potential of cultural resource in Aomori local food will be explored.	後期	水曜日	5・6時限	10	
46	青森エクスカージョン	Making ethnography of local issues	諏訪 淳一郎(国際連携本部)	○地域の生活に関する個別の関心に基づいた民族誌的調査を設計し、それを土台にフィールド調査を行います。 Student is expected to design and conduct an ethnographic research on local lives of any particular topic chosen by student. ○授業の最後には、調査結果をもとに文章またはビジュアルによる民族誌的な報告を取りまとめられます。 The result of reach must be completed in the forms of an ethnographic report in writing or visual representation.	後期	水曜日	7・8時限	8	
47	青森の多様性と活性化	介護文化と高齢化	○木立 るり子(保健学研究科)、北嶋 結(保健学研究科)	○過疎に近い地域で、困難や今後の心配事が多くありながらも元気に生活する高齢者について、フィールドワークを通して理解する ○地域包括ケアシステムの現状に関する理解を深め、今後に求められる地域ケアと自分たちに可能な方策を導く	後期	木曜日	9・10時限	10	
48	青森エクスカージョン	北日本の民俗芸能・祭り	下田 雄次(非常勤講師)	○青森県を中心として、各地の民俗芸能や祭りに関わる人々の姿に触れます。 ○当事者の立場に立脚した視座を獲得しながら、各地域においてこれらの文化がもつ意味や社会的機能、人々の考え方や価値観などについて理解を深めてゆきます。 ○各地の民俗芸能や祭りがどのように受け継がれ、実践されているか、どのような意味や価値、魅力、あるいは課題や展望が認識されているか等といった点に着目しながら、地域の人々の生活の営みの中にある存在として、これらの文化を捉え、考えてゆきます。 ○この授業では、映像や音声を用いた現場の状況説明を基本にして各地の事例を見てゆきます。 ○各地における調査の方法に触れながら、現地調査についても学びます。 ○祭囃子や芸能の所作などの体験学習も行います。	後期	木曜日	9・10時限	50	
49	青森の多様性と活性化	地域社会とジェンダー	○羽渕 一代(人文社会科学部)、今田 匡彦(教育学部)、山田 巖子(人文社会科学部)、出 佳奈子(教育学部)、諏訪 淳一郎(国際連携本部)、武内 裕明(教育学部)、古村 健太郎(人文社会科学部)、尾崎 名津子(人文社会科学部)	○ジェンダー問題について、人々の生活に関わり、国や地域社会における様々な政策展開に左右されていることを理解する。とくに青森県においてもジェンダー・セクシュアリティに関わる問題があることを知る。 ○組織活動におけるジェンダー問題として日本のみならず、世界の経済に影響を与えられていることを理解する。 ○少子・高齢化問題とのかかわりを知る。 ○ジェンダー論により、現代社会の直面する課題がどのようなものであるかを知り、その解決方法を考える。 ○「ジェンダー＝社会的性差」という視点は、現在では、差別や抑圧的イデオロギー、制度の告発に利用されるという運動的な側面を超え、より一般的に社会を把握するための概念措置となっていることを理解する。 ○思想的な色合いよりも社会科学的な思考法としての「ジェンダー視点」を学ぶ。 ○ジェンダーは、どのような社会的現象にでも内在するため、担当教員のそれぞれの専門分野における最新のトピックをジェンダーという概念措置を利用して講義します。 ○また青森県にある文化財やそれ以外の地域にある文化財とジェンダーのかかわりについて学びます。	後期	金曜日	5・6時限	120	
50	市民参加と地域づくり	若者の政治参加	森本 洋介(教育学部)	・全国的に課題となっている若者の政治参加のあり方について、青森県の若者の政治参加の向上を念頭に置いて学ぶ。 ・若者の政治がなぜ低いのかを多面的に考察する(CP・DP2 解決する力)。 ・そもそも民主主義とは何か、なぜ若者が政治参加することが重要なのか、学校における政治的中立性とは何か、主権者教育はどうあるべきか、などといった現代の課題についても学習し、自分なりの回答を導き出す(CP・DP2 解決する力)。 ・テレビ、新聞、SNSといったメディアによる情報の伝え方についても多面的に解釈する能力(メディア・リテラシー)を、演習を通して身に付ける(CP・DP2 解決する力)。	後期	金曜日	7・8時限	25	

整理番号	科目名	サブタイトル	担当教員	科目概要	開講時間			学生 受入定員	備考
51	地域プロジェクト演習	津軽三味線(発展)	富田 晃(教育学部)	津軽三味線の演奏講習。 津軽地方の芸術文化に関する体験的学習。	後期	金曜日	7・8時限	14	
52	青森エクスカージョン	青森県の企業の魅力を発信②	小寺 将太(非常勤講師)	○本講義では、青森県内の魅力的な企業を発掘するために県内企業へ調査を行い、現地調査のスキルを身につけていきます ○各学部之力、専門性をチームとして活かしながら、青森県内の企業の魅力をどのように発信していけばよいか解決策を企画・提案していきます ○青森県内の企業の魅力を発信する企画の実践を通して、県内企業が抱える課題を解決していくことが本講義の目的です	後期	金曜日	9・10時限	30	
53	青森の多様性と活性化	地域活性化論②	○長南 幸安(教育学部)、小倉 亮(ゲストスピーカー)、藤田 邦雄(ゲストスピーカー)、川崎 武志(非常勤講師)、坂本 謙二(非常勤講師)、福眞 陸城(非常勤講師)、神田 昌彦(非常勤講師)	○青森県内の公的機関、企業、非営利団体等において活躍されている講師から、それぞれの立場で「地域活性化をどのようにとらえ、また実践しているか」について学ぶ。 ○青森県の地域活性化のための方策を考察し、レポートとして提案する。	後期	集中		90	開講日:10/3(土),4(日),10(土) (受講のための説明ガイダンスは、放課後に実施)
54	青森の多様性と活性化	地域社会と移動	○成田 凌(非常勤講師)、羽瀨 一代(人文社会科学部)	○日本の「最周縁」の青森県のなかでも、さらに周辺に位置づけられる過疎市町村の暮らしについて、主に社会学的な視角や手法を用いて理解を深める。 ○本講義ではとくに農村-都市移動(都市移住)、還流移動(Uターン)、地方移住(「田園回帰」や「ターン」といった、地域間移動との関連から地域社会について考える。	後期	集中		20	講義+フィールドワーク+発表報告を実施予定のため、分割日程での開講を希望 後期10月~2月各月1回(土曜日、4コマ/回)を予定
55	地域プロジェクト演習	地域産品の創作E	富田 晃(教育学部)	○サンポーニヤやバンパイプと呼ばれる楽器を制作します。 ○青森における文化創造と地域の活性化をめざして一般公開の公演をおこないます。	後期	集中		14	
56	青森エクスカージョン	青森県の農地の生態学	ムラノ 千恵(非常勤講師)	○青森県の農地環境とそこを利用する生物との関係性を知る ○農地における生物多様性保全の重要性や課題、人間の経済活動や地域社会との関係性を考える。	前期	水曜日	7・8時限	25	新規開講
97	以下、前期の科目ならどの科目でも良い。								
98	以下、後期の科目ならどの科目でも良い。								
99	以下、前期・後期どの科目でも良い。								